

## リンゴ斑点落葉病をうまく防除するコツは、6月下旬の薬剤選択

### 【1 成果概要】

7月上旬まで発生しなければ夏期に多発するリスクは大幅に減る。  
6月下旬に効果の高い薬剤を選択することで、夏期の発生を抑えることができる。  
防除薬剤は、ナリアWDGかユニックスZ水和剤を用いる。

斑点落葉病の防除は6月下旬の薬剤選択でOK

### 【2 効果】

- 1 例年7月に多発する園地でも高い防除効果が認められる  
(7月上旬の初発を抑えるため)
- 2 7月は輪紋病等の果実病害を意識した薬剤選択で良くなる  
(7月下旬まで高い防除効果が期待できるため)
- 3 7月以降の防除間隔を、従来の10日から15日に延長するための基幹となる防除法となる。



図1 斑点落葉病の病徴

### 【3 留意事項】

- 1 「6月下旬」とは梅雨入り直前の25日前後のこと。散布日が遅れないように注意。
- 2 6月下旬時点で万が一発生が多い場合は、専用剤(ロブラール剤)を使用する。
- 3 7月は発生動向に応じて専用剤(ロブラール剤、ポリオキシシン剤)を使用する。油断は禁物。

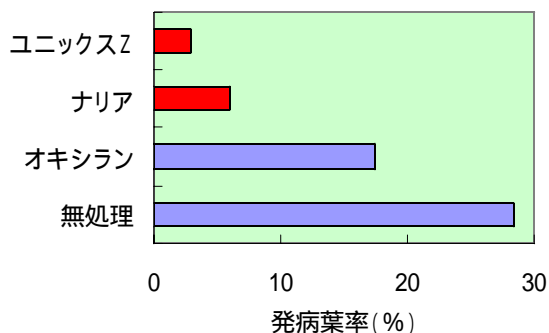


図2 6月下旬に選ぶ防除薬剤と、夏期の発生量  
病気が見えない時期の薬剤選択で、発生量は大きく変わる。

### 【4 適応対象】

- 1 地帯
  - (1)リンゴ栽培地域(全県下)
  - (2)対象面積 2,400ha(本病が問題にならない地域を除いた)
- 2 対象者
  - (1)7月に斑点落葉病が多発生する地域の生産者
  - (2)防除暦を作成する農業指導者

### 【5 導入コスト】

- 1 資材費(見込み)  
定期散布剤を選択するだけなので、資材費の大幅アップはない。

担当研究室 病害虫部 病理昆虫研究室

〒024-0003 北上市成田20-1

TEL. 0197-68-4424

FAX. 0197-68-4316

